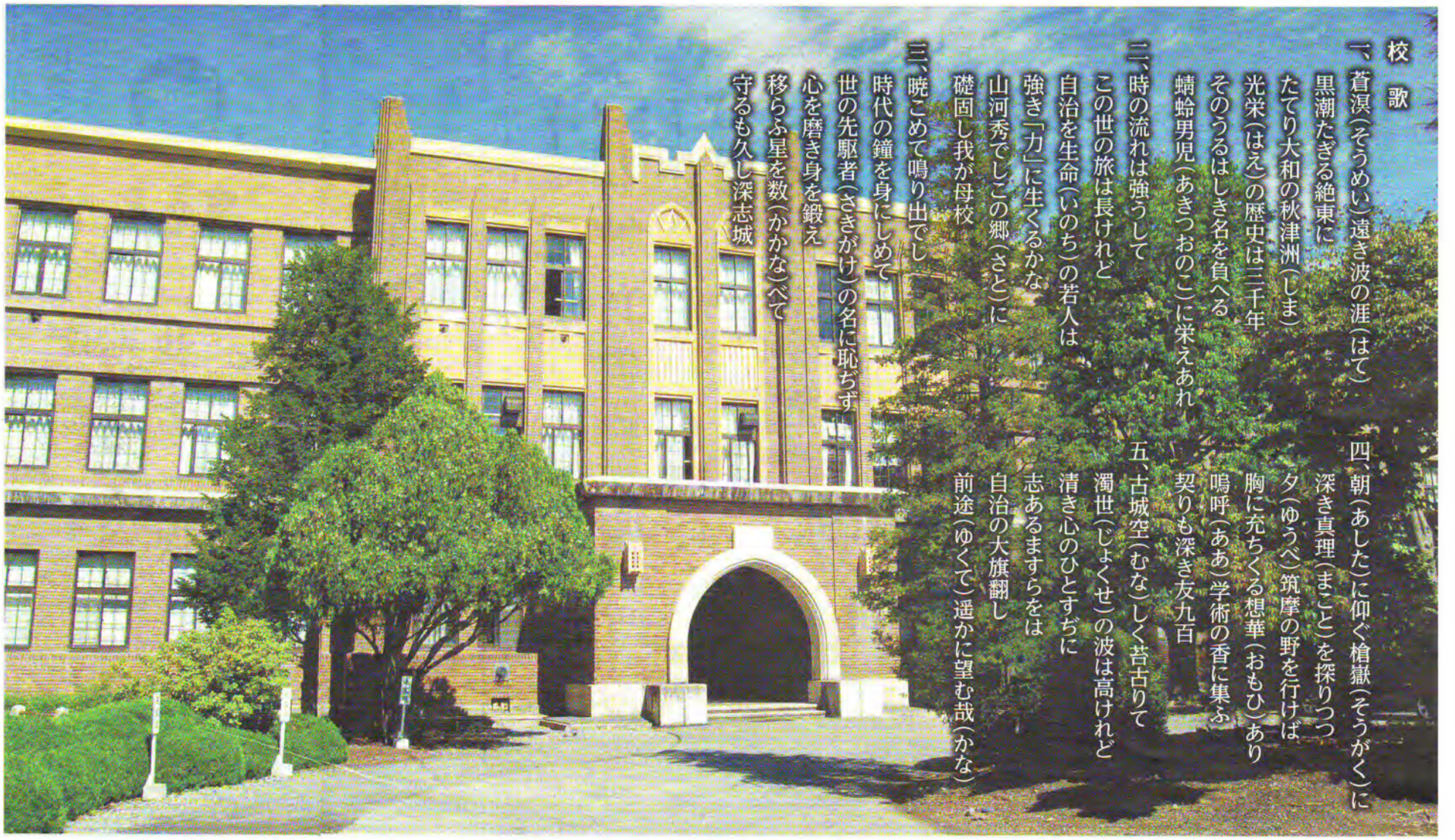
自治を叫びて140年

松本深志高校 創立140周年



校歌

一、蒼溟(そうめい)遠き波の涯(はて)
黒潮たぎる絶東に
たてり大和の秋津洲(しま)
光栄(はえ)の歴史は三千年
そのうるはしき名を負へる
蜻蛉男児(あきつおのこ)に栄えあれ

二、時の流れは強うして
この世の旅は長けれど
自治を生命(いのち)の若人は
強き「力」に生くるかな
山河秀でしこの郷(さと)に
礎固し我が母校

三、暁こめて鳴り出でし
時代の鐘を身にしめて
世の先駆者(さきがけ)の名に恥ぢず
心を磨き身を鍛え
移らふ星を数(かかな)べて
守るも久し深志城

四、朝(あした)に仰ぐ槍嶽(そうがく)に
深き真理(まこと)を探りつつ
夕(ゆうべ)筑摩の野を行けば
胸に充ちくる想華(おもひ)あり
嗚呼(ああ)学術の香に集ふ
契りも深き友九百

五、古城空(むな)しく苔古りて
濁世(じょくせ)の波は高けれど
清き心のひとすぢに
志あるますらをは
自治の大旗翻し
前途(ゆくて)遥かに望む哉(かな)

松本市蟻ケ崎の市街地を見渡せる高台に建つ松本深志高校が、今年創立140周年の節目の年を迎えた。明治9年の開校以来、3万5000人を超える卒業生たちは、政治経済、文化芸術、教育など多岐にわたる分野において、国内外を問わず活躍の場を広めている。

自治の精神の礎は、初代校長・小林有也が生徒たちに遺した御三訓にある。

一、克く学業に勉励せよ
一、身体を強健にせよ
一、世の悪風に染むことなかれ

この御三訓は深志生の心に刻まれ、そのよりどころとなり、初代校長のもとで培われた自治の気風は、現在も学校教育の根底を支えている。

正門を入った正面にある荘厳なたたずまいの第一棟は平成14年に国の登録有形文化財に指定され、第二、三棟は平成11年に明るく近代的な校舎として生まれ変わった。恵まれた設備と環境の整った学び舎で生徒たちは、勉学や生徒会活動、部活動に励み、それぞれの自己実現を目指しながら、地域の期待に応えられるよう日常生活に向かっている。明治から大正、昭和、平成と時代の変遷の中で深志生はいま、変わらない自治の精神や伝統を受け継ぎながらも、時代に即した新たな深志の歴史を作りだしている。

創立記念式典 15日に開催

松本深志高校140周年記念特集
13面—18面

創立140周年記念事業

松本深志高等学校創立140周年記念美術展

松中・深志
師弟が駆け抜けた
明治・大正・昭和

近代美術の幕開け

同時開催：在校生作品展／歴代とんぼ祭ポスター展

明治・武井真澄『槍ヶ嶽』松本深志高等学校蔵

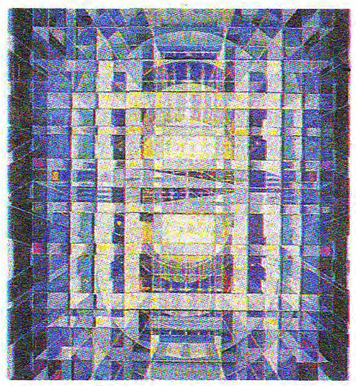
10月13日(木)～16日(日)

9:00～17:00（最終日は16:00）

松本市美術館
市民ギャラリーA・B　多目的ホール

入場無料

大正・上條俊介『少女像』
松本深志高等学校蔵



昭和・大貫悌二『89 電動磁場図』
松本市美術館蔵

松本中学、深志高校と関わりのあった美術教師とその教えを受け、画家、彫刻家として活躍した同窓生の美術活動における足跡を探り、明治・大正・昭和の物故者に光を当てる。同校所蔵の武井真澄や、宮坂勝、小林邦、髙橋節郎などの松本市美術館収蔵作品に加え松本平の愛好家や親族の自宅で大切に所蔵されていた、日本画、洋画、彫刻、工芸を展示する。時代を超えてよみがえる作品が、地域の芸術文化への役割や貢献を再確認し、未来の懸け橋となることを祈る展覧会だ。多目的ホールでは在校生作品展と歴代とんぼ祭ポスター展を開催する。

同窓会長あいさつ

深志同窓会会長
井上　保

本年、創立140周年を迎えるにあたり、10月15日の記念式典に始まり、多くの記念事業を行います。これも先輩各位、また、同窓生、PTAの皆さん、学校側の暖かいご支援のもとに行われることにまずもって感謝を申し上げます。

同窓会ではこの創立140周年という節目の年に、改めて先輩の築いたこれまでの歴史と伝統を検証し、10年後の150周年に向けて継承していかねばと気持ちを新たにしております。

歴史、伝統を築くということは、その時、その時代に立ち合い、関わった者たちが「自治」の精神のもとに進化していくものだと思います。

若い同窓生諸君、特に現役の深志高校の生徒諸君は、創立140周年に立ち合い、巡り合わせた自分の立場を想う時、次へ繋いでいく使命を感じて欲しいと思います。

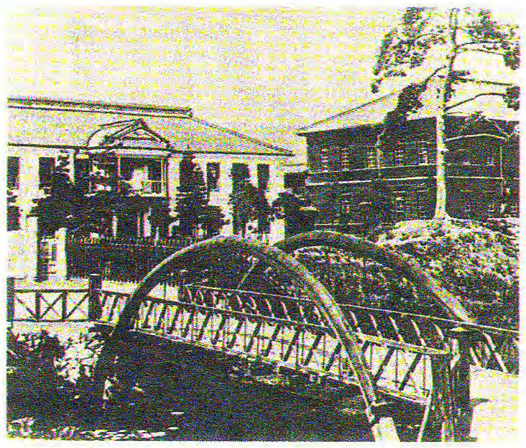
写真・資料でたどる「松中・深志140年の歩み」展

10月15日(土)～16日(日) 9:00～17:00

深志教育会館

入場無料

130周年記念事業として建設された深志高校から徒歩１分の深志教育会館では、同窓会所蔵の「お宝」約200点を初めて公開する。貴重な写真や資料を見ることができるまたとない機会となる。



明治19年に新築直後の長野県中学校松本支校

創立140周年記念式典

10月15日(土) 11:00～

受け付け開始／9:30～（講堂前）
会　場／松本深志高校　大体育館
参加費／3,000円　※参加希望者は同窓会事務局☎0263-39-2081へ連絡を
記念品／『深志140年のあゆみ』『トンボのめがね』ほか

祝賀会

開始時間／13:00～ 会場／講堂
※駐車場がないので公共交通機関を利用のこと

同窓生の多彩な活躍

学び舎を共にした深志同窓生たちは、卒業後に多方面で活躍の場を広げている。深志同窓会は松本深志高校創立１４０周年を記念し、5年おきとなる同窓会名簿の発刊や記念DVDの販売、またチャリティーゴルフコンペ、記念式典などを開催するほか、音楽や美術など各界で活躍する同窓生にスポットを当てた文化事業を企画している。10月１日には講師にフリーライターの元川悦子氏、司会にテレビアナウンサーの野尻英恵氏という同窓生2人による講演会を開催した。

15日には松本深志高校において「創立１４０周年記念式典」を開催する（問＝同窓会事務局☎0263-39-2081）。長野県内で最も古い歴史を誇る同窓会が記念出版した『トンボのめがね』と『深志140年のあゆみ』を、参加者に記念品として贈呈する。

松本深志高等学校創立140周年

記念純米酒 好評販売中

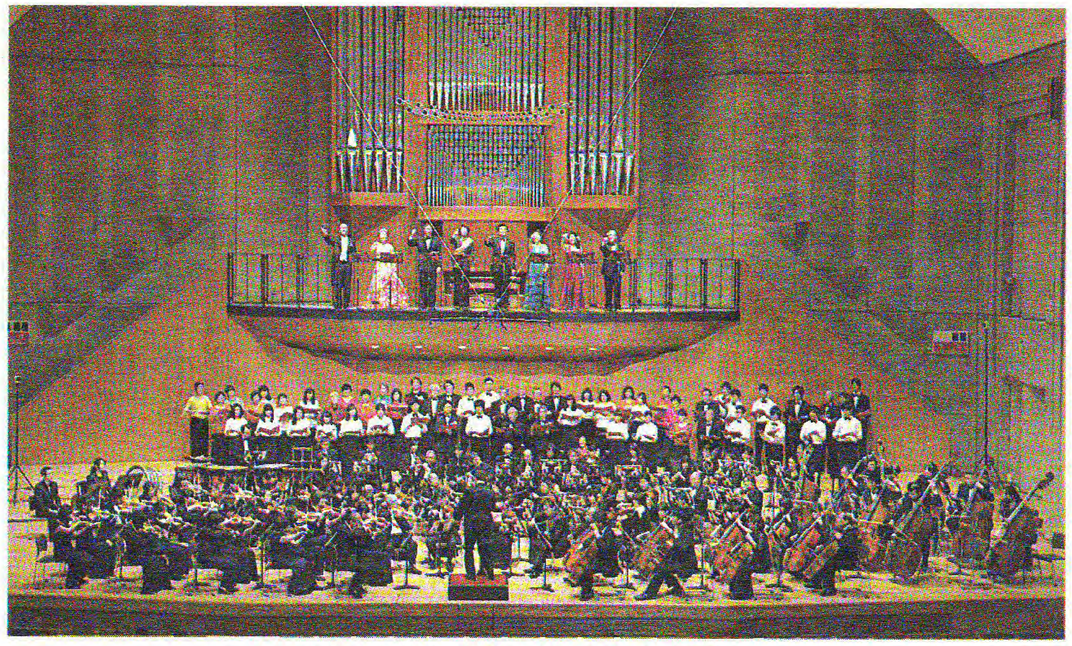
北は池田町から南は木曽谷まで、同窓生が蔵元となった酒蔵は十蔵ある。それぞれの歴史を背負いながら伝統の酒造りを続ける十蔵が、母校創立140周年のお祝いに純米酒を通信販売でセット販売している。販売は12月末までとなる。

大雪渓酒造（池田町／大雪渓）、山清酒造（筑北村／山清）、ＥＨ酒造（安曇野市／酔園）、奥澤商会（松本市／深志鶴）、亀田屋酒造店（松本市／アルプス正宗）、丸永酒造場（塩尻市／高波）、七笑酒造（木曽町／七笑）、笑亀酒造（塩尻市／笑亀）、西尾酒造（大桑村／木曽のかけはし）、小野酒造店（辰野町／夜明け前）の十蔵が、それぞれの流儀で看板銘柄の記念純米酒を創り上げた。校章のとんぼがモチーフのラベルは共通で、瓶の裏面のラベルに銘柄、蔵、蔵元の同窓生の氏名が入っている。

1本720mℓ入りで、3つの蔵元の銘柄を組み合わせた 3本セット（組み合わせはお任せ）が 5,000円、すべての酒造の 10本セットが 1万5,000円で、いずれも税と送料込み。収益の一部は母校へ援助金として寄付される。詳細は発売元のカネハチかしわや（☎0263・47・0051）へ問い合わせを。

松本深志高等学校創立140周年記念

志音会演奏会



志音会第13回演奏会（2015年3月29日）

10月23日（日） 14:00開演

キッセイ文化ホール（長野県松本文化会館）大ホール

入場料／2,000円

プロの音楽家を含む深志高校音楽部OBと現役生を中心に、吹奏楽部のOBなども加わり、15～82歳までの幅広い年齢層の約900人で構成される「志音会」。オーケストラと合唱団を擁し、創立120周年の記念演奏会以来、ほぼ2年に1回全体の演奏会を開催している。

今回は客演指揮に、小澤征爾氏などに師事し、2008年に宮内庁式部職楽部指揮者に就任した北原幸男氏を迎え、チャイコスフキーの「交響曲第5番ホ短調 作品64」とハイドンのオラトリオ「天地創造」抜粋を演奏する。さらにソリストとして同窓生で志音会のエースでバリトンの太田直樹氏と志音会の合唱指導をするアルトのたぐちたみ氏、さらに二期会会員のソプラノの鈴木愛美氏とテノールの与儀巧氏を迎える。

北原幸男氏

入場料は2,000円で、チケットはキッセイ文化ホール、クレモナ、音楽社、ミュージックプラザオグチ、井上プレイガイドで好評発売中。当日精算、渡しのチケット取り置きは、22日までに事務局中村さん（FAX0261・85・9205、yuki-nhs@muse.ocn.ne.jp）へ、卒業回数、名前、当日連絡のつく電話番号、必要枚数を伝える。

深志の現在(いま) —伝統は作っていくもの—

応援団管理委員会座談会

学ランに身を包み、黒いマント羽織り高げたを履いた団長を中心に、応援をリードする松本深志高校の応援団管理委員会(応管)。そのバンカラな装束や応援歌など、伝統の応援スタイルを守りながらも、ポップス調の応援歌の作成など新たな取り組みも始めているという。深志の伝統を継承すること、そして新たな伝統を作っていくことについて、応管の思いを座談会形式で聞いた。

団長 大野田 悟之君(3年)
副団長 松下 奈未さん(3年)
副団長 平沢 一真君(3年)
南 佳希君(3年)
前田 光星君(3年)
新団長 山田 光花莉さん(2年)
新副団長 中村 仁美さん(2年)
新副団長 宇佐美 ゆきのさん(2年)

校舎屋上に掲揚されたこいのぼり(撮影年不明) 深志同窓会所蔵

—現在応管ではどのような活動をしていますか?

大野田 深志は「全校応援団制」をとっており、クラスから選出された応援団管理委員会が応援を指導、リードしています。私達の64代から65代の2年生へと引き継ぎになりますので、新団長が活動を紹介します。

山田 野球の応援練習のほか、応援指導や壮行会の実施、5月の「こいのぼり集会」でのこいのぼりの作成と掲揚、新入生オリエンテーションでの学校案内など活動は多岐に渡ります。野球部以外からの応援要請も受け付けています。

—昨年新しい応援歌を作成したと伺いました。

松下 基本となる伝統的な応援バリエーションを加えたいと、ポピュラーな応援歌作成を3年生で提案しました。

南 新しいものが常にいいというわけでもないので、応管全員で慎重に議論を重ねました。

平沢 伝統を継承することと変えていくこと、それぞれのメリットデメリットについてかなり討論しましたね。変えていったものがこれからの伝統になっていくものだと思いますので。

南 歌詞のアレンジも決まり練習が始まると、野球部から期待の声も聞こえてきました。

前田 3年生が中心となって作ったのは7曲です。

平沢 皆さん最初はびっくりしていましたが、応援が盛り上がると好評です。団員はもちろんOBの皆さんにも大勢応援に来てほしいですね。

山田 私達が引き継いでから、野球部からのリクエストも受けてさっそく3曲を作りました。

—受け継いできた伝統と、これから作る新たな伝統の両方があるのが応管なのですね。

大野田 応管に入ってまず先輩から言われたのは、「自分たちで変えていけ」ということです。

平沢 「すべての一つ一つの挙動を、持てる限りの全力でやれ」ということも、初日から言われ続けました。

前田 ですから活動の中で「変えるべきところ」は変えてきました。

松下 応援の際はTシャツの上に学ランを着て、さらにマントや法被を羽織るのですが、特に夏は熱中症の危険と隣り合わせになってしまうのです。応管保護者のアンケートでも時代に合わないという意見があり、夏の応援時だけはTシャツの上にマントや法被でも良いというスタイルにしました。

前田 夏に限り履物を履いても良いようにもしました。

平沢 足の裏を火傷してしまうんですよね。

山田 おかげで応援に集中できるようになりました。

中村 和太鼓など応援道具のリヤカーでの運搬時に、飲料水だけは車で運んでもらうようにしました。これはより応援に集中するための策ですが、考えていかなければいけない課題はまだたくさんあります。

大野田 「自分たちの力でできる」ことを再確認する機会となるリヤカー引きは次の世代でも続けていって欲しいですね。

1年生への応援指導

—これからの応管に託すこと、求めるものはなんでしょう。

大野田 活動の中で疑問に思ったことをやめるべきか続けるべきか、存分に話し合いをしてください。ケースバイケースでしっかり判断をしてください。

松下 伝統だから、先輩達がこうしてきたからではなく、楽しみながら思うように活動してくれればと思います。

平沢 応管は生徒達が作ってきたもので「正解」がないので、正解なのかどうなのか一人一人が自分達で考えながら行動していくとよいのではないでしょうか。自由に意見を交わし合い、自分達の代の応管を全力で作り上げてください。

南 全力でやることが楽しいと周りにも伝わるよう、自分が楽しめるやり方でやってください。

前田 振り返って楽しかったなと思えるよう、後悔しないように活動してほしいと思います。

山田 形だけの引き継ぎではなく、理念をしっかりと持ちながら、意味のある活動をしていきたいです。団員一人一人の自覚を促し、積極的参加を見込めるよう、これからも一つ一つの活動を見直して私達の応援団を作っていきたいと思います。

中村 活動が形がい化していると感じる場面が多々あります。軸や芯となる部分についてしっかりと話し合い、意味のある行動をできるようにしていきたいと思います。

宇佐美 自己満足で終わる応援ではなく、気持ちを込めて相手を満足させることができる活動をしていけるように心掛けていきます。

学校長あいさつ

松本深志高等学校
学校長 小口 俊幸

学校創立140年の記念すべき年を迎え、ここに盛大に記念式典を挙行できますことは、学校としてこの上ない慶びであります。これもひとえに、本校の発展のために深いご理解とご支援をくださいました地域の皆さまを始め、関係各位のおかげだと衷心より感謝を申し上げます。

本校は、長い歴史の中にあって多くの有為な人材を輩出してまいりました。卒業された同窓の皆さまが、国の内外を問わず各界各方面で中核となって活躍され、社会の発展に大きく貢献されておりますことは誠に心強い限りであり、今深志で学んでいる生徒たちにとりましても大きな励みとなるものであります。

今、若者には、自分たちの手で自分たちが生きていく社会の問題を解決し、未来を創造していくことが求められております。現役の生徒たちには、この機に、140年の輝かしい歴史をしっかりと心に刻み、そのよき伝統の上に深志での学びを通じて、自分の持ち味をいかに世の中のために発揮するかを問いながら、未来に踏み出していってくれることを期待しております。

深志の伝統をさらに積み上げていくために、今後とも深志が誇れる生徒の育成に職員一同全力で取り組む所存でおりますので、皆さまには変わらぬご指導とご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

生徒会長あいさつ

松本深志高等学校
生徒会長 塚原 裕樹

わが松本深志高校は今七月を以って学校創立140年を迎えることができました。これも偏に保護者、OB、近隣の皆様のご理解とご協力があったからだと思います。深く御礼申し上げます。

さて、ここで140年の精神が培った深志独自の校風をお伝えしたいと思います。それは、なんといっても生徒会活動です。ここまで生徒が主体となって運営する生徒会は非常に稀だと自負しています。顕著に表れているのはわが校の文化祭、『どんぼ祭』です。県外の高校生がどんぼ祭を見学しに来た際に感想を訊いてみましたが、「こんなに大きな文化祭は自分の県で見たことがない。」とのことでした。そんな文化祭を予算の決定から資材の調達、近隣の方々への挨拶回り、文化祭中の校内設備の管理、全体の運営に至るまで生徒ができない仕事を除きほぼ生徒主体で行います。実際、このシステムが評価され、光栄なことに某県のある高校の文化祭の参考とされています。

このように私たちは、こんな恵まれた環境に身を置き早いうちから回りの人たちと協調を図りつつ、自主自立の精神を育むべく日々精進しています。

今、世界は混沌とし、この世界に対応できる人材が求められています。この松本深志高校がめくるめく変容する世界に柔軟に対応し、名実ともにこしえの松本深志高校であり続けることを一同塾生として強く祈念しています。

明治から平成へ 歴史重ねる140年

長野県松本深志高等学校は、明治９年に開智学校内に「第17番中学変則学校」として創立され、17年に長野県中学校となった。32年には長野県松本中学校となり、昭和10年には現在地に移転、そして23年に旧制中学校74年の歴史を閉じて「長野県松本深志高等学校」となった。「自治自律・自学自習」という自治の精神を脈々と受け継ぎながら明治、大正、昭和、そして平成と歴史を重ねてきた。

長野県松本深志高等学校　沿革

明治	9年	7月	開智学校内に「第17番中学変則学校」設置、生徒数50人
	10年	7月	長野県師範学校松本支校（松本市柳町旧松本藩学跡）に校舎移転
	13年	1月	「公立松本中学校」と改称
	14年	11月	第1回卒業生7人
	17年	9月	「長野県中学校」松本支校となる
	18年	11月	松本城二の丸に松本支校新校舎落成
	31年		図画科・望月俊稜教諭発案による蜻蛉（とんぼ）の校章を正式に決定
	32年	4月	「長野県松本中学校」に独立改称
	34年	5月	帽子の五色線で学年明示（1年赤、2年緑、3年紫、4年黄、5年白）
大正	3年	6月	小林有也校長逝去、龍興寺に埋葬
	11年		現行の校歌制定。作詞・4年松原威雄、作曲・東京音楽学校教授岡野貞一
	13年	6月	「私立夜間松本中学校」開校（15年から校長は松本中学校長が兼務、松中と校舎共用）
昭和	2年	4月	「私立夜間松本中学校」は「市立松本夜間中学校」となる
	10年	7月	松本市蟻ヶ崎の新校舎に移転
	11年		創立50周年、新校舎落成記念祝典
	19年	10月	松本医学専門学校（現・信州大学医学部）と校舎を共用
	23年		長野県松本中学校の74年の歴史に幕を閉じ、4月に松本深志高校発足。5月、市立夜間中学校が本校定時制となる
	24年	3月	深志高校第1回卒業式
		4月	初めて女生徒を交えた編入生入学式
		10月	校内放送設備完成記念祭の名称を「とんぼ祭」として実施（第2回と数える）、新校章制定
	26年	5月	こいのぼりが屋上に初めて揚がる
		10月	旧制松本中学から赤門を移設し、「登竜門」として生徒通用門となる
	31年	10月	80周年記念式典（明治9年起算）。深志尚学会育英基金創設
	35年	6月	日米安保条約改定の国会審議に関連して、民主主義擁護の要望書を学校長に提出、全校職員生徒がこの趣旨で市中行進
	41年	11月	創立90周年記念式典
	42年	8月1日	2学年西穂高岳集団登山で被雷、11人死亡、13人重軽傷の大惨事となる
	45年	10月	番犬クロ、テレビなどで取り上げられ話題となる
	47年	11月	35年以来の番犬クロが病死
	48年	3月	松本筑摩高校の新設で定時制課程廃止
	51年	10月	創立100周年記念式典。同窓会が深志の森造成、深志百年館建設
	57年	12月	校舎の第一棟が日本建築学会により、日本近代貴重建築物の一つに選ばれる
	58年	3月	合宿所「良有館」完成
	60年	2月	大体育館、音楽室など施設工事完了
	61年	10月	創立110周年記念式典。同窓会「深志人物誌」刊行
平成	6年	12月	初の女性生徒会長選出
	8年	10月	創立120周年記念式典。同窓会「深志人物誌Ⅱ」刊行
	11年	10月	初の女性応援団長選出
	12年	11月	第二、三棟の改築、第一棟の改修が終わり、校舎しゅん工記念式典
	14年	12月	管理棟普通教室棟と講堂が、国の登録有形文化財となる
	16年	3月	小体育館竣工
	18年	8月	「深志教育会館」しゅん工
		10月	創立130周年記念式典、同窓会「深志人物誌Ⅲ」を刊行
	19年	7月	とんぼ祭第60回記念
	28年	10月	創立140周年記念式典